

# 一般国道440号 じよし地芳道路

## (事後評価)

平成27年12月 8日



国土交通省四国地方整備局

# 1. 事業の目的と概要(1)

## ■ 事業目的

- ・ 通行障害(急カーブ・幅員狭小、豪雨災害・積雪による通行止めなど)の解消
- ・ 中山間地の救急医療体制等の強化を支援
- ・ 県境を跨いだ地域間交流・連携を支援
- ・ 地域産業の支援
- ・ 移住促進のための取組を支援

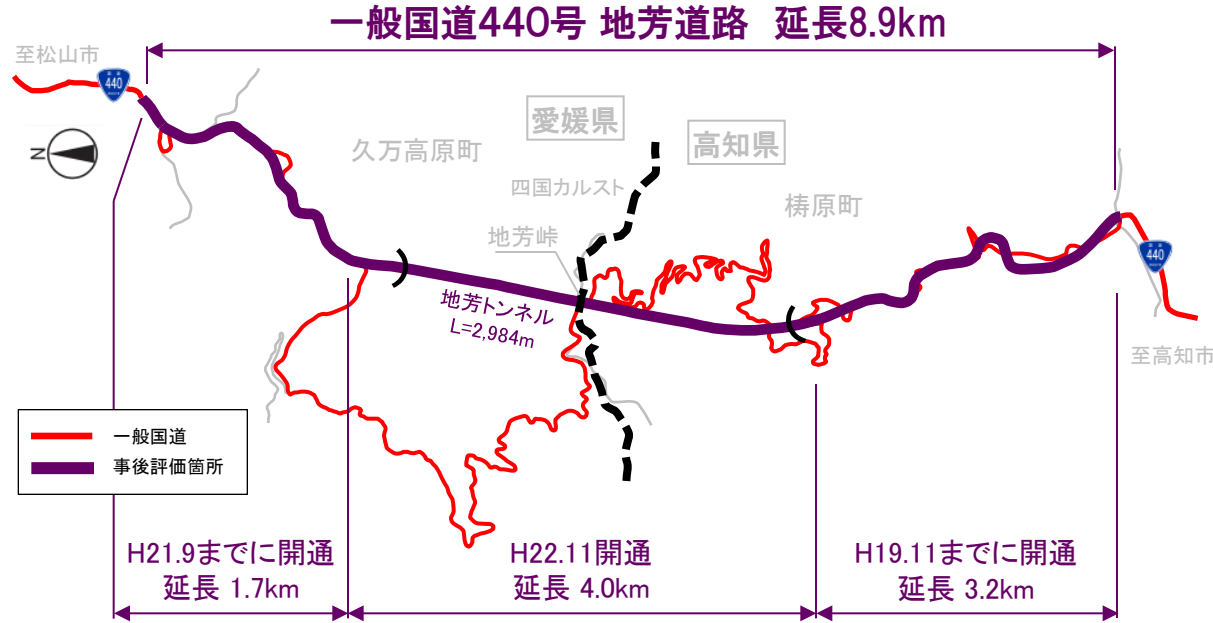
## <位置図>



## ■ 計画概要

起終点	自:愛媛県上浮穴郡久万高原町西谷 至:高知県高岡郡梶原町下本村	
延長、幅員	延長 8.9km、幅員 10.0m	
構造規格 設計速度	第3種第3級、2車線 設計速度 50km/h	
事業の 経緯	事業化	平成 2年度
	用地着手	平成 4年度(高知県側) 平成 7年度(愛媛県側)
	工事着手	平成 4年度(高知県側) 平成10年度(愛媛県側)
	開通年	平成22年度(全線開通)

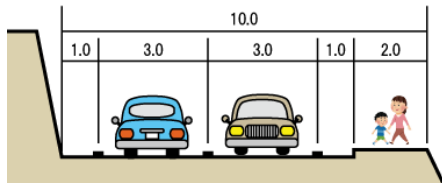
## <平面図>



## <断面図>

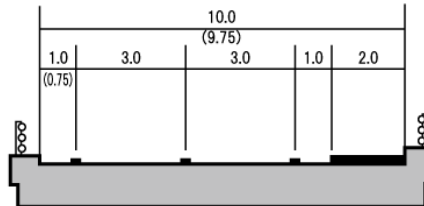
### 【一般部】

(単位:m)



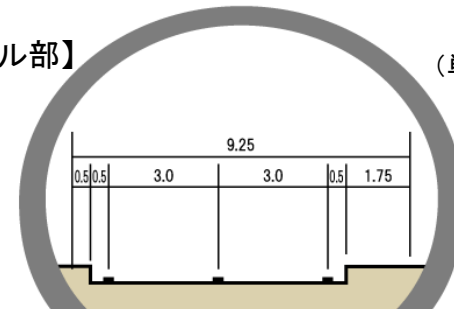
### 【橋梁部】

(単位:m)



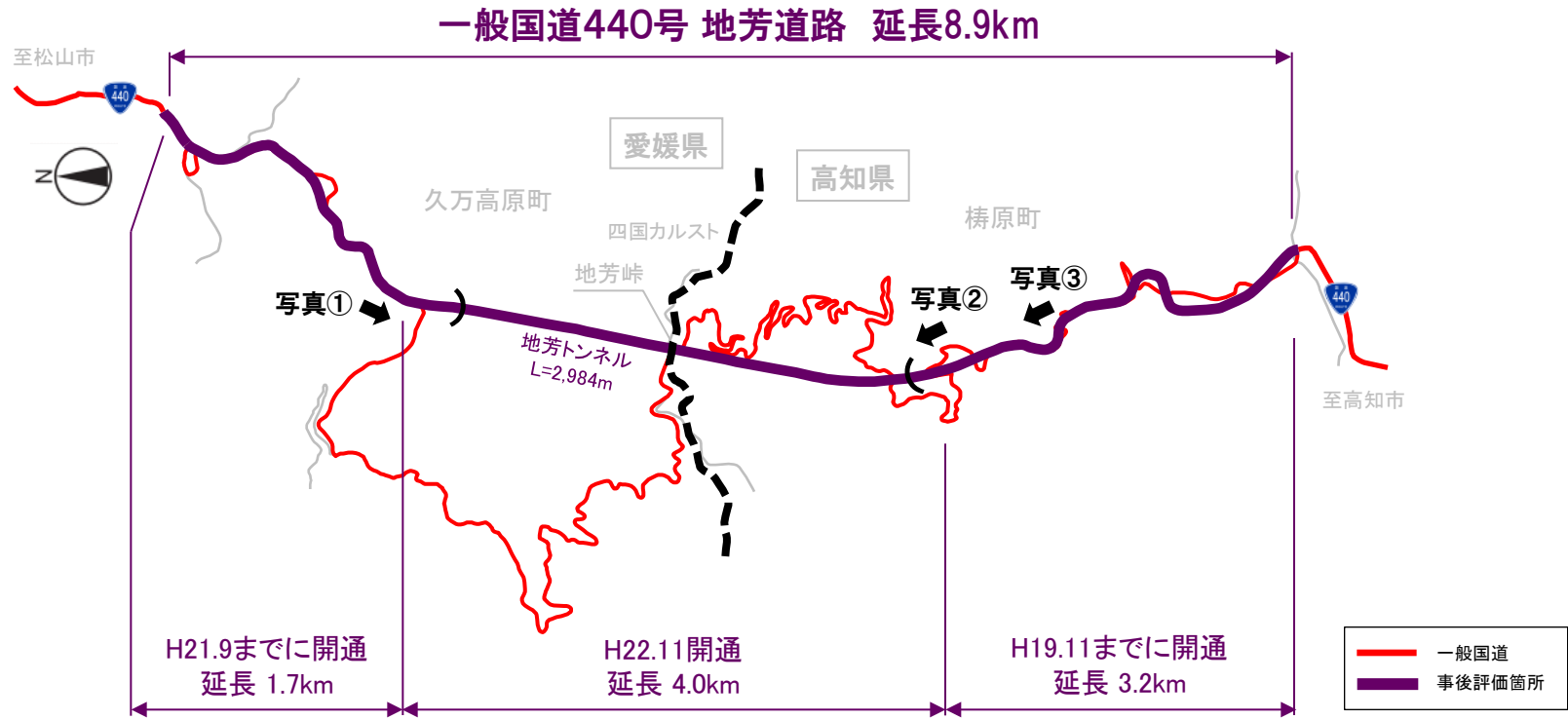
### 【トンネル部】

(単位:m)



※( )内の数値は、100m以上の橋梁

# 1. 事業の目的と概要(2)



【写真①】



【写真②】



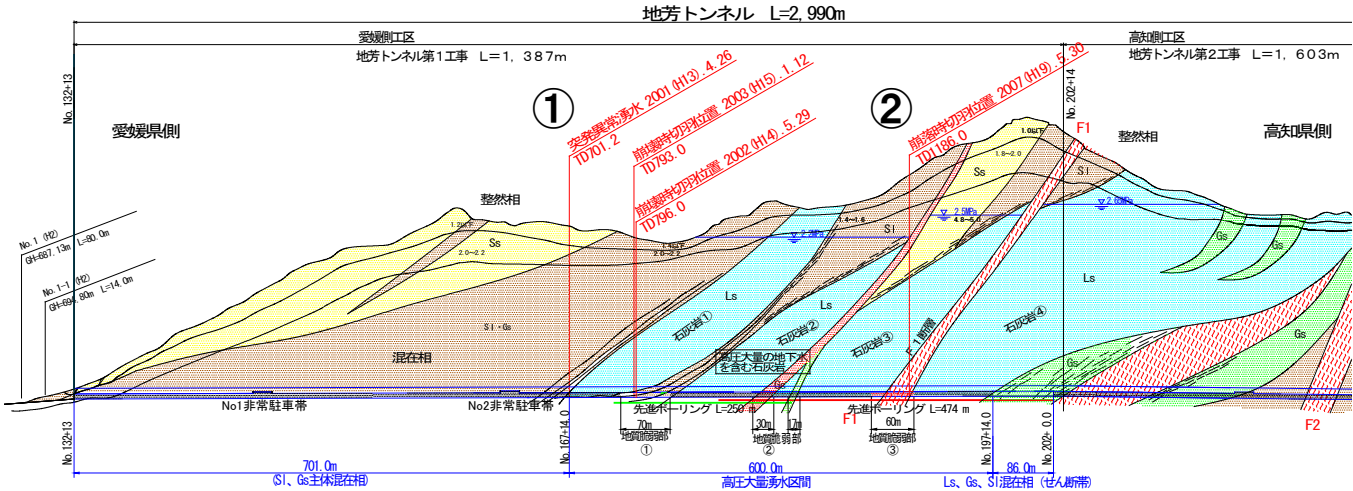
【写真③】



# 1. 事業の目的と概要(3) 事業経緯

## 地芳道路 事業経緯

昭和57年 4月	国道440号に昇格
平成 2年	事業化(直轄権限代行)
<b>平成12年 1月</b>	<b>地芳トンネル工事着手</b>
平成13年 4月	突発異常出水発生(20t/分)
平成14年 5月	切羽支保工の崩壊
平成15年 1月	盤ぶくれ、土砂を伴う異常出水
平成19年 5月	切羽崩壊
平成21年 3月	事業一時凍結(B/C 0.5)
平成21年 6月	事業評価監視委員会で事業継続は妥当と判断
<b>平成22年 4月</b>	<b>地芳トンネル完成</b>
平成22年11月	地芳道路 全線開通



①【20t/分の突発異常出水】



【削孔口からの噴出湧水 5t/分】



②【切羽崩壊状況】



【梶原町広報 開通特別号】

【パレードを出迎える梶原町の皆さん】



【高知新聞 H21.4.1掲載】

## 2. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

### ■ 当初計画と開通時の比較

	当初計画 (H16再評価時※)	開通後	変化及びその原因
道路構造等	第3種第3級 延長 8.9km、2車線	第3種第3級 延長 8.9km、2車線	変化なし
総事業費	313億円	464億円	地芳トンネル施工時に発生した突発湧水(20t/分)や3度の崩落などへの対策工事費が増加したため
交通量	1,200台/日	250台/日 (実績 H27.10.23 平日) 470台/日 (実績 H27.10.25 休日)	H16再評価時の計画交通量は、H11センサスペースフルネットでの推計値
事業期間	平成2年度～平成18年度	平成2年度～平成22年度	

※:平成2年事業化で新規採択評価を行っていないため、参考値としてH16再評価時の値等を記載

# 3. 事業効果の発現状況(1) 走行性、安全性の向上

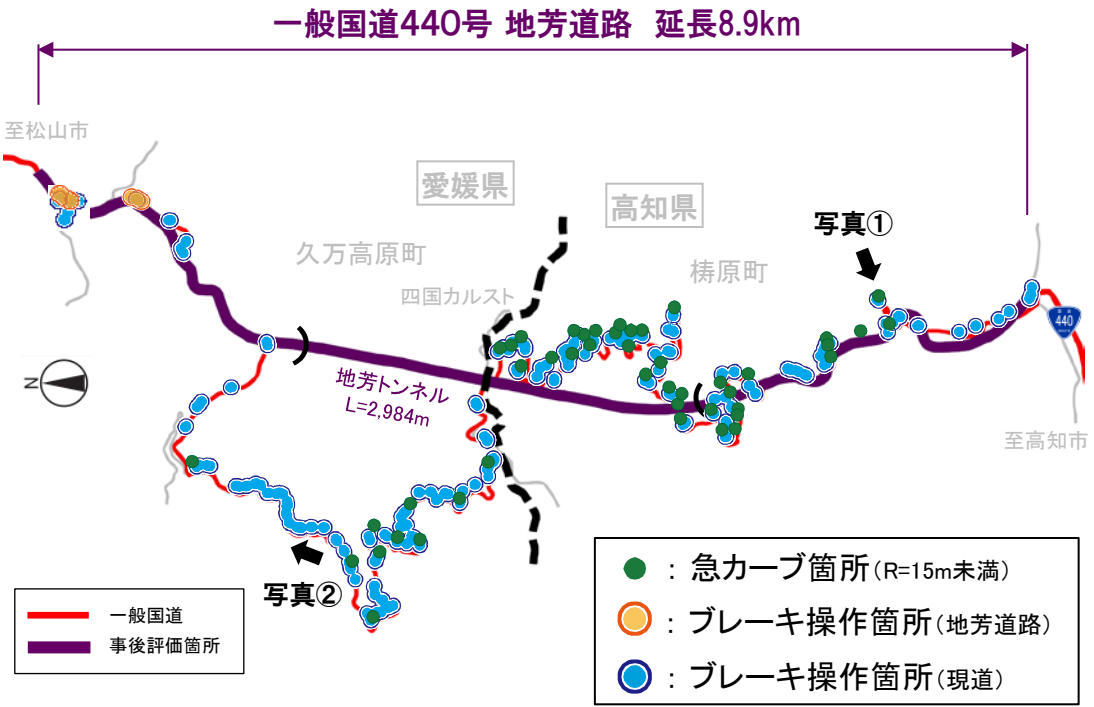
・現道の課題であった急カーブや幅員狭小などを、地芳道路の開通により解消。走行性や安全性が向上。  
 ・走行距離が約6割、時間が約8割短縮され、県境を跨ぐ交通量が増加。県境を越えた地域間の交流を支援。

## <現道の課題>

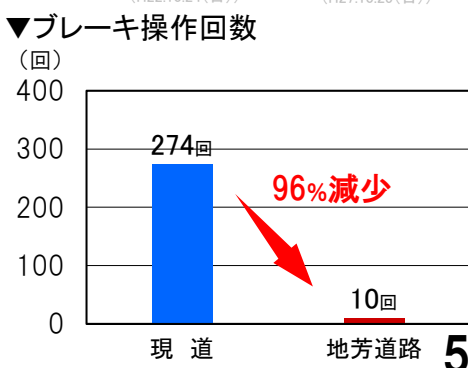
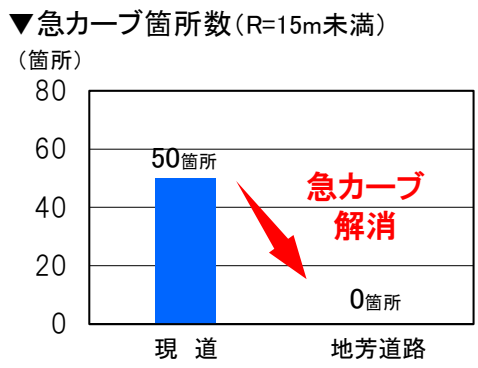
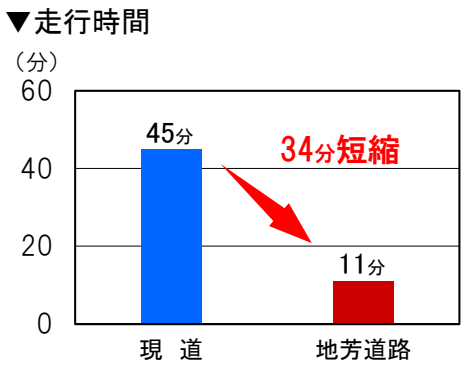
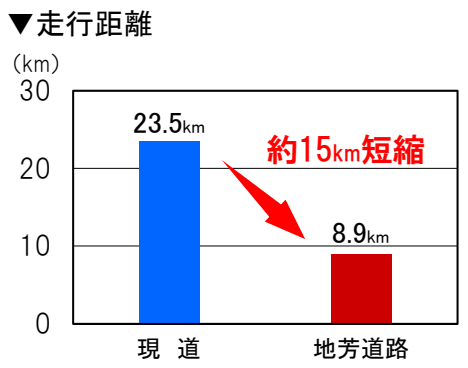
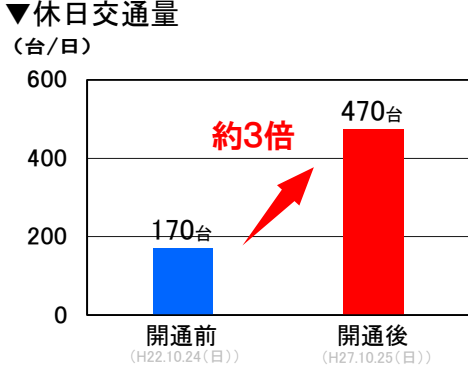
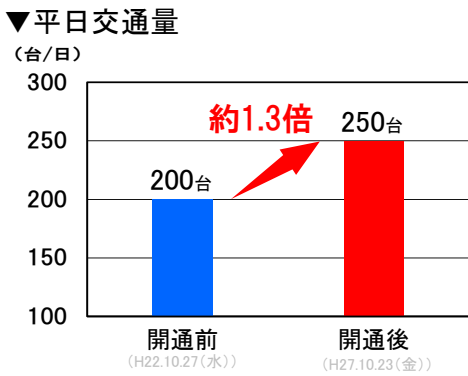
▼急カーブの状況【写真①】



▼幅員狭小区間の状況【写真②】



## <交通量>



※R=15mとは、20km/hで走行する場合に確保すべき最小半径  
 資料) 試験走行調査結果より

# 3.事業効果の発現状況(2) 常時安心して通行できるルートを確認

- ・現道は防災上危険な箇所も多く、**豪雨による災害や冬期の積雪により度々通行止めが発生**し、日常の利用に支障が生じていた。
- ・地芳道路の開通により、**年平均約85日の通行止めがゼロ**になり、常時安心して通行できるルートを確認。

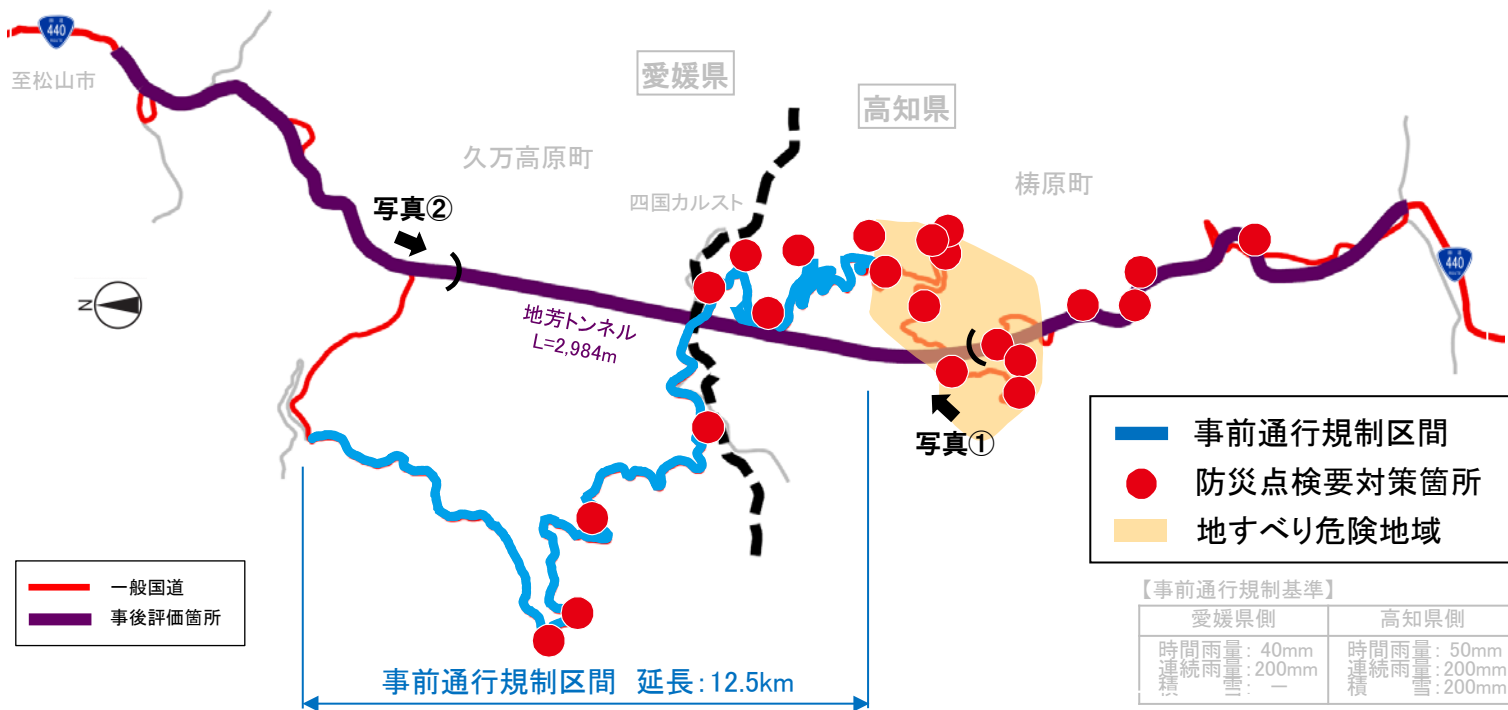
▼現道の法面崩壊状況【写真①】



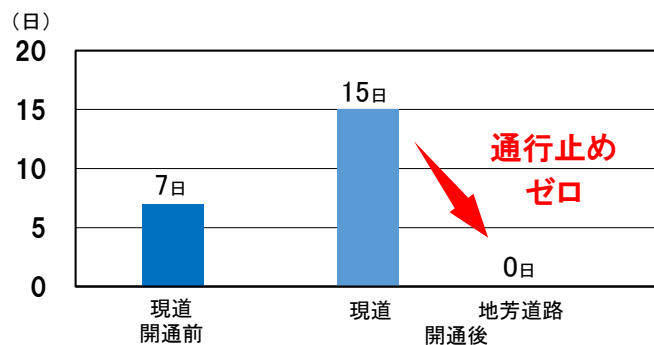
▼現道の積雪状況



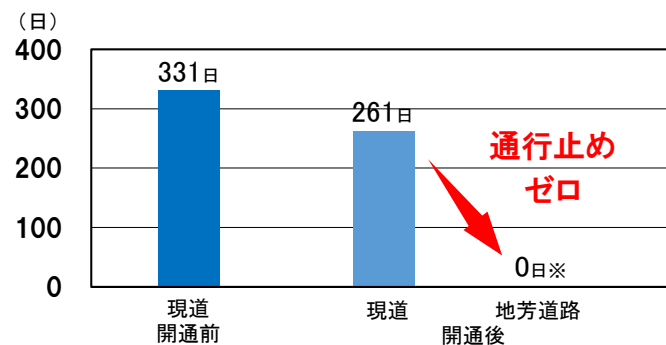
▼冬期の地芳道路の状況【写真②】



▼災害・降雨による通行規制日数



▼積雪による通行規制日数



資料) 愛媛県、高知県提供資料より  
 開通前 H19~H22 4年間の累計  
 開通後 H23~H26 4年間の累計  
 ※開通後の地芳道路は、65日間のチェーン規制あり

# 3.事業効果の発現状況(3) 地域の救急医療を支援

- ・地芳道路の開通により、**県境を跨いだ効率的で迅速な救急搬送が可能**となり、地域住民の安心感も向上。
- ・地芳道路の開通を見据え、**県境を跨ぐ地域間で消防相互応援協定等を締結**。協力体制の確立により、地域の防災力が向上。

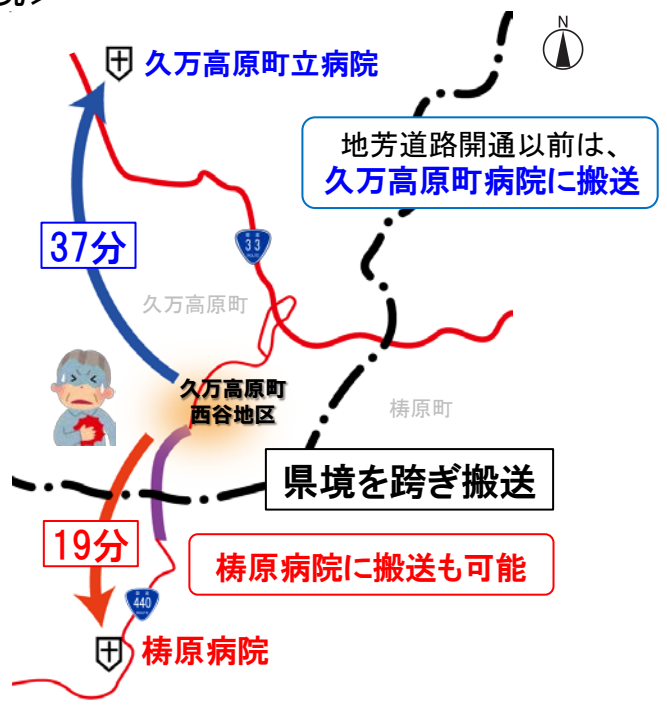
## <効率的な救急搬送の実現>



久万高原町立病院  
(二次医療施設)



栲原町立国保栲原病院  
(二次医療施設)



## <冬期の県境を跨いだ救急搬送>



※写真提供 鹿島建設(株)

## <県境を跨いだ地域間の連携>

### ▼高幡消防組合と久万高原町消防相互応援協定書(抜粋)

(目的)  
第1条 この協定は、火災その他災害に関し、消防相互の応援により、「高知県」高幡消防組合(以下甲という。)及び「愛媛県」久万高原町(乙という。)が消防力を最も有効に活用し、隣接する被災地における人的、物的被害を最小限に防止し、もって地域住民の安寧秩序に万全を期すことを目的とする。

### ▼協定に基づき、合同訓練を開催



- 久万高原消防本部  
地芳道路の開通に伴い、**栲原病院への搬送も選択肢の一つ**となり、今までに**5件の搬送実績**があります。
- 栲原病院  
現在、**久万高原町にお住まいの12名の方に栲原病院を利用**していただいています。



# 【参考】事業による波及効果(1) 移住促進のための取組を支援

- ・地芳道路の開通を契機に梶原町では、平成26年度より移住促進のための取組を本格的に実施。
- ・これまでに、**58名の方が移住**。これらの取組により**人口の減少に歯止め**がかかるとともに、若い方の移住が多く、地域の活性化にも繋がっている。

## ＜移住・定住の取組状況＞

### ▼梶原町の人口と社会増減



### 梶原町 人口減に歯止め 4月 前年比1人減

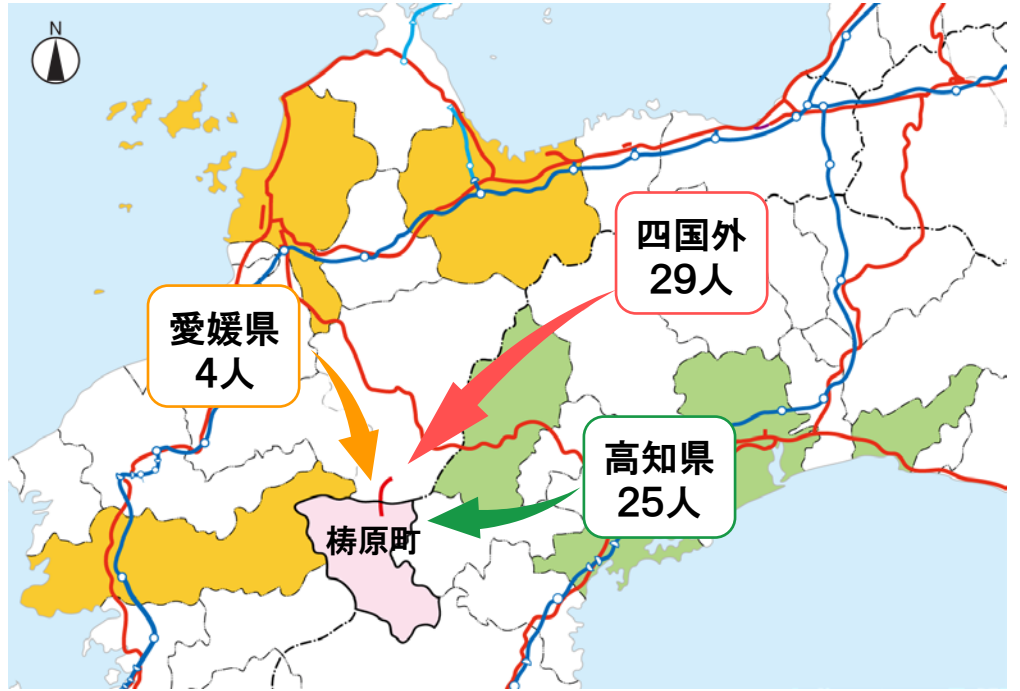
【梶原町】移住者58人、人口減に歯止め  
 梶原町では、地芳道路の開通を契機に、平成26年度より移住促進のための取組を本格的に実施している。これまでに、58名の方が移住し、人口の減少に歯止めがかかるとともに、若い方の移住が多く、地域の活性化にも繋がっている。



2015年(平成27年) 6月25日



### ▼移住者の状況



資料) 梶原町資料

### ■梶原町役場 企画財政課 企画定住対策課

地芳道路が開通し、**愛媛県と繋がったことが、移住施策に取り組む契機**となりました。  
 平成26年度から本格的な移住政策を始め、現在までに**58名の方が移住**しています。  
 地域を担う、30～40歳代の方が多く、**地域の活性化**につながっています。

資料) 梶原町HP

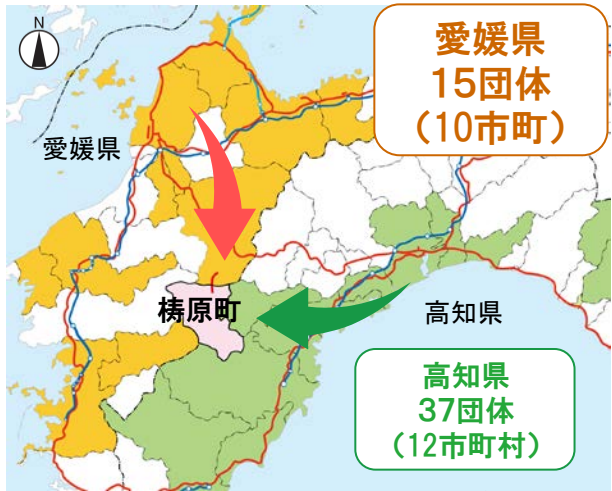
# 【参考】事業による波及効果(2) 県境を跨いだ交流を支援

- ・地芳道路の開通を契機に、梶原町では平成25年より「愛媛県vs高知県 ゆすはらグルメまつり」を開催。平成27年は、愛媛県から10市町 15団体が出店。過去最高の約3万人の観光客が来場。
- ・また、久万高原町の道の駅「天空の郷 さんさん」で梶原町産の商品を販売するなど新たな地域間の交流・連携が始まる。

## <県境を跨いだ観光交流>

▼高知県vs愛媛県 ゆすはらグルメまつり(H25～)

【H27年 ブース出店団体】

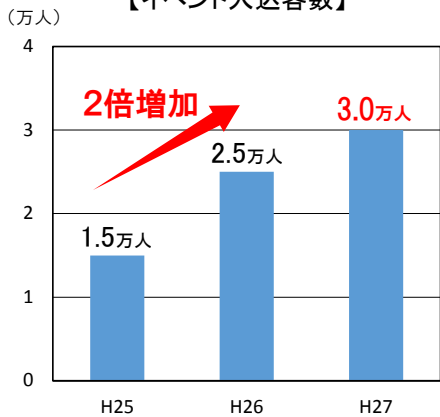


資料)梶原町より

【H27年 開催状況】



【イベント入込客数】



グルメが集結!!

愛媛と高知の真ん中の町、梶原

ゆすはら  
グルメ  
まつり

26 27  
SAT SUN  
10:00～16:00

梶原町総合庁舎 駐車場

西四国へそ梶原町に  
高知と愛媛のつまいもんが勢揃い!

約90分!

## <県境を跨いだ地域間の交流・連携>

▼愛媛県久万高原町の道の駅「天空の郷 さんさん」で梶原町産の商品を販売



【道の駅「天空の郷 さんさん」】

- ・平成26年4月オープン
- ・来場者数は、約117万人 資料)愛媛県推計値(H27.3末まで)

▼地元住民が地域内外の交流拠点をオープン(永野いやしの里)



【永野いやしの里】高知県高知市永野いやしの里に、地元住民が運営する交流拠点をオープンした。永野いやしの里は、高知市の中心部にあり、市民が交流の場として活用されている。また、地域の活性化に貢献している。永野いやしの里は、高知市の中心部にあり、市民が交流の場として活用されている。また、地域の活性化に貢献している。

地芳トンネル近くに直販所

# 【参考】事業による波及効果(3) 県境を跨いだ地域産業(林業)を支援

- ・地芳道路の開通を契機に**梶原町森林組合では、久万広域森林組合と新たな取引を開始。**
- ・また、久万広域森林組合は、地芳道路を利用することで**効率的な木材の搬送が可能**となるなど、地域の産業を支援。

## ＜県境を跨いだ木材の取引状況など変化＞

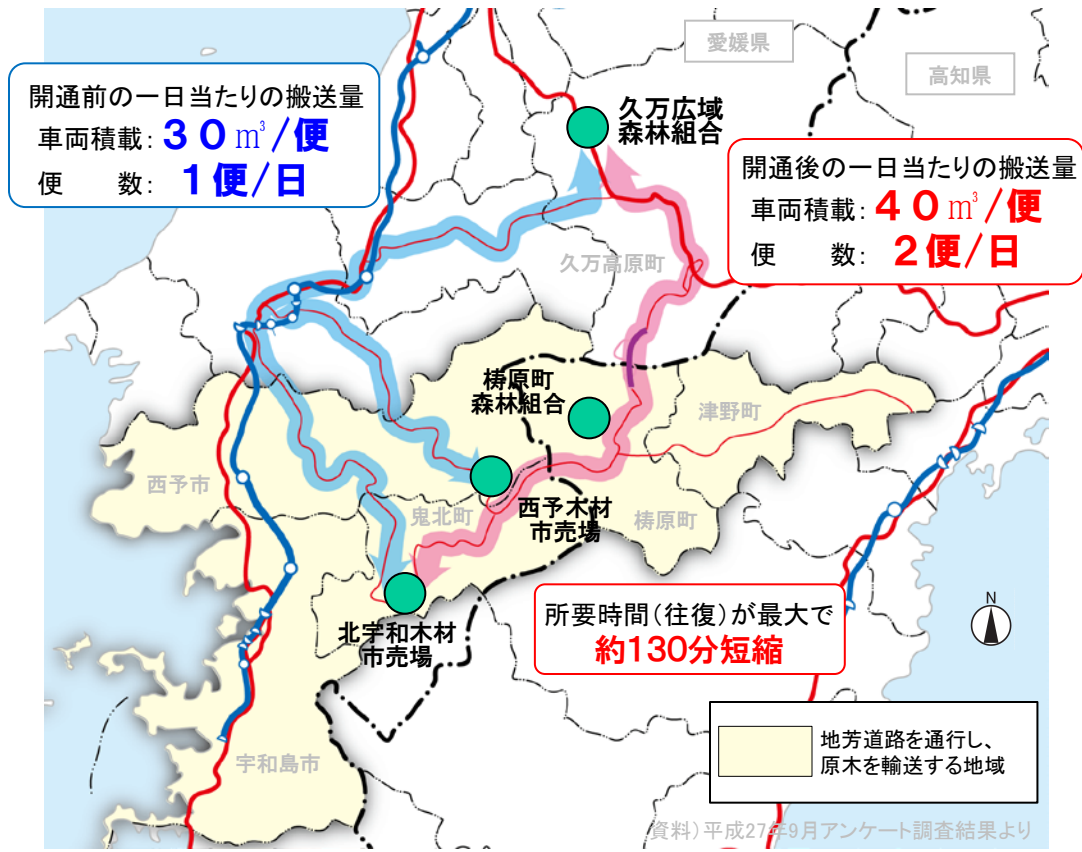
### ▼梶原町森林組合と久万広域森林組合との取引

開通後の平成23年より取引を開始  
 平成26年で、**約1,000m<sup>3</sup>**、**約1,000万円**の取引実績  
資料)梶原町森林組合より

### ▼木材の搬送状況



### ▼久万広域森林組合の地芳道路開通前後での運送経路



### ■久万広域森林組合



地芳道路の開通により、**所要時間が大幅に短縮**、大型車両での配送が可能となり、**輸送コストの削減**にも繋がっています。  
 また、新しく梶原町や津野町の市場にも買い付けに行けるようになりました。

# 【参考】 地域での新たな取り組みを支援

- ・**梶原町**では、「**梶原町まち・ひと・しごと創生総合戦略 ～小さな拠点 ゆすはらづくり～**」を平成27年11月に策定。
- ・**人口3,960人確保**(H31年度)を目指し、「**絆**」「**自立**」をキーワードに魅力ある生き生きと楽しく暮らし続けられる地域づくりを推進。

## <実現すべき基本目標>

**<目的>**  
**小さな拠点 ゆすはらづくり** キーワード:「**絆**」、「**個の自立**」

**実現すべき基本目標**

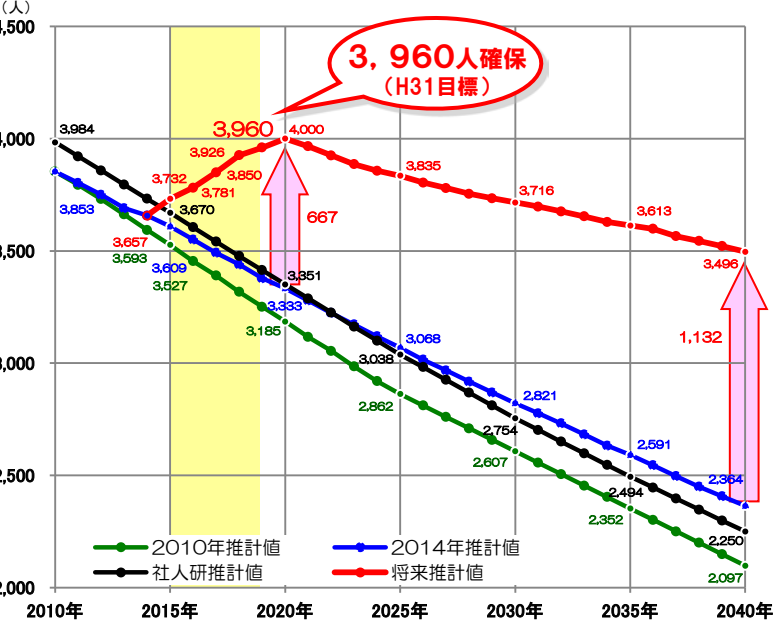
- ① **梶原町における安定した雇用を創出する**
- ② **梶原町への新しい人の流れをつくる**
- ③ **若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える**
- ④ **道の駅ゆすはらを拠点として6つの小さな拠点と連携し、生きる仕組みをつくる**

～これまでの状況～

- ・ 国道197号布施ヶ坂工区と**地芳道路の完成**により、梶原町への**アクセスが飛躍的に向上**
- ・ 交流人口の拡大、雇用の場を生み出すなど、**人口の社会増加につながる基盤として機能**  
(「梶原町まち・ひと・しごと創生総合戦略 ～小さな拠点 ゆすはらづくり～」より抜粋、要約)

- ▼ **小さな拠点「新しい道の駅ゆすはら」の整備**  
 新しい道の駅ゆすはらを核として、6地域と連携したまちづくりを推進
- 《新設》 フィットネス、エステティックサロン、ヨガ
- 《再生》 市場、ホテル、レストラン、こどもの健康施設

## <梶原町の人口の将来展望(目指すべき方向)>



資料)「梶原町まち・ひと・しごと創生総合戦略 ～小さな拠点 ゆすはらづくり～」平成27年11月、梶原町

## 4. 今後の事業評価の必要性等

### ■ 今後の事後評価の必要性

地芳道路の開通により、現道の通行障害の解消、それに伴う、中山間地の救急医療体制等の強化、県境を跨いだ地域間交流・連携、地域産業及び移住促進のための取組の支援など、事業目的に見合った効果が確認できていることから、今後の事後評価の必要性はない。

### ■ 改善措置の必要性

地芳道路は、想定された効果が発揮されており、当面の改善措置の必要性はない。

### ■ 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法について見直しの必要性

- これまでも、事業評価監視委員会や愛媛県及び高知県知事からの意見として、従来の3便益(走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少)以外に「通行止め解消の効果」、「救急医療や防災面の効果」、「安全安心な生活の確保」等、地域の実情や固有の課題を適切に評価すべきとの指摘を受けているところである。
- 引き続き、地域や事業の特性を考慮した評価手法について検討していく。

※ 整備効果(試算例)

- ◆ 冬期の積雪や豪雨災害等による通行止め解消 【約3億円】
- ◆ 医療施設への所要時間短縮による救命率の向上 【約2億円】

■ 前回評価時との比較

	一般国道440号 地芳道路		備考 (前回評価時からの主な変更点)
	前回評価時 (平成21年度)	今回評価時 (平成27年度)	
延長	延長8.9km	延長8.9km	・変化なし
計画交通量 (将来推計値)	1,000台/日	400台/日	・交通量の見直し 前回: 将来交通量推計(H17センサスベース、フルネット将来OD表) 今回: 将来交通量推計(H17センサスベース、事業化ネット第2段階将来OD表)
総事業費	464億円	464億円	・変化なし
総費用※ (C)	543億円	655億円	・基準年の変更(H21からH27基準)
総便益※ (B)	284億円	109億円	・交通量の見直し ・基準年の変更(H21からH27基準)
費用対効果 (B/C)	0.5	0.2	・総費用及び総便益が変化したため

※: 総費用及び総便益は、基準年における現在価値の値